

平成25年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要
園芸部門

夢を託した 「河内晩柑」の木成り栽培で 地域を元気に

○氏名又は名称 株式会社 吉田農園（代表 吉田 浩）

○所在地 愛媛県南宇和郡愛南町

○出品財 経営（かんきつ）

○概要

・地域の概要

株式会社吉田農園がある愛媛県南宇和郡愛南町は県の西南端にあり、温暖で雨の多い気候を活かした晩柑類の産地である。町内の柑橘栽培は、昭和30年頃からの夏みかん栽培に始まり、その後に導入された「河内晩柑（かわちばんかん）」は全国生産量の約52%（4,563t）を同町で生産し、全国一の産地である。

・取組の経過と経営の現況

吉田浩氏は、昭和63年に農業大学校を卒業後、父親から生産技術や考え方を学び、平成5年に経営を引き継ぐと、平成24年には株式会社吉田農園を設立し、現在では、河内晩柑を中心に、経営面積10ha、粗収益6,500万円を実現している。

・特色

(1)「木成り（きなり）栽培方式」によりお中元需要をターゲットに

「河内晩柑」は、糖度の高い3～5月に収穫し、低温貯蔵で減酸させてから5～6月に販売することが一般的であったが、吉田農園は、貯蔵しないで収穫まで樹上で完熟させる「木成り栽培方式」をとることで、甘みと酸味のバランスが良くなり、これまで販売時期外であったお中元の商材に用いることを可能とした。一方で、木成り栽培は樹体への負担が大きいため、木ごとに収穫時期や収穫量を決定し、樹齢に応じた剪定を行うなど、安定して果実を収穫するための管理の工夫を重ねている。

(2)高値での直接販売と異例の長期間の出荷体制の構築

「消費者へ適期に美味しい果実を届けたい」との思いから、100%個人出荷の独自販売に乗り出した。徐々に木成り栽培のコンセプトとその品質が認められるようになり、現在は、インターネット等による宅配を中心に高値での直接販売を実現するとともに、木成り栽培方式の導入と晩柑類を主体とした作付体系の高度化により、柑橘栽培経営としては異例の長期間の出荷体制を確立した。

(3)規模拡大と法人化による地域雇用の促進

父から経営を引き継いだ後、労働生産性の良い自宅近隣に、10ha・8箇所の樹園地を拡大・集約し、「河内晩柑」を主軸（7.6ha）とした作付体系に見直した。

また、販売営業と生産規模拡大を両立するため、生産管理を任せることのできる人材や経営管理等に従事する人材を確保・育成し、平成24年1月に株式会社吉田農園として法人化した。現在では、9名の雇用を全て地元人で担い、地域雇用の促進に努めている。

・普及性と今後の発展方向

吉田氏は、独自に蓄積した技術や経営戦略などについては、研修会や視察受け入れ等の機会があるごとに開示している。町内では約40%の生産者で木成り栽培技術が普及しており、産地の活性化にもつながっている。また、柑橘農家でも高収入が得られることが認知されれば、農業全体のイメージアップにもつながることから、粗収益1億円を目指して栽培・販売計画を立て、そのための園地の拡大を現在も続けている。